

第2学年 技術・家庭科学習指導案

日 時 平成26年11月10日(月)第6校時
 学 級 2年A組(男子19名、女子13名)
 授業者 教諭 畠山尚子

1 題材名 住生活の自立

2 題材について

住まいは、私たちの生活を危険から守り、心身の健康と安らぎを与えてくれる場である。しかし、家庭内における死亡事故の件数は交通事故をはるかに上回っている現状がある。また、3年前の東日本大震災の被災により、住居に対する安全・安心への要求はますます高まっている。本題材では、住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分や家族の住空間に関心をもち、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにすることをねらいとしている。

3 生徒について

事前調査を行ったところ、小学校での住まいの学習内容について家庭で実践している生徒は「している」「時々している」を合わせると、整理・整頓94%、掃除79%、快適な住まい方90%の結果であった。実践していない理由として「面倒くさい」「忘れていた」などが挙げられたが、生活をよりよくしようとする意欲がみられた。住居の快適性については、「快適」「だいたい快適」と回答した生徒は90%と高いが、逆に「あまり快適でない」と回答した生徒の理由は「部屋の区切りがおかしい」「汚い」「暑い」という不満であった。住まいの安全性については、「安全である」「わりと安全である」と回答した生徒は93%であるが、安全対策を具体的に実践している生徒は23%と低かった。住居の安全については、生徒自身が実践することが難しい内容もあることから、関心はややあるものの親任せで主体的に取り組むことができない実態があるが、安全性や快適性を重視した住まい方に関する知識を身につけ、自分でできること事を見つけ、実践しようとする態度を身につけることが重要であると考え。

指導にあたっては、生徒が学習した知識を活用できるように問題解決的な学習を行う。自らの住生活を意識させながら、安全で快適な住まい方について自分の考えを発表したり、他者の話を聞いたりすることで、安全な住まい方を具体的に工夫できるようにしていく。

4 題材の指導目標

- (1) 住居の機能と住まい方に関する学習を通して、自分や家族の住空間に関心を持たせる。
【関心・意欲・態度】
- (2) 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について知るとともに課題を見つけ、その解決を目指して工夫させ、具体的に学習プリントに自分の考えを記入させる。
【知識・理解】【工夫・創造】

5 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心を持って学習に取り組んでいる。 ・安全で快適な室内環境に関心をもち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境について課題を見つけ、調査・観察・実験などを通して、安全で快適な整え方について考え、工夫している。 	/	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の基本的な機能について理解している。 ・安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。 ・家庭内事故の防止や自然災害への備え ・室内の空気調節 ・音と生活との関わり

6 題材の指導と評価計画（6時間）

	学習内容	評価の観点	評価方法
第1時	我が家について知ろう	【関心・意欲・態度】	学習プリント
第2時	住まいのはたらき	【関心・意欲・態度】【知識・理解】	ノート・学習プリント
第3時	安全な住まい (住まいの安全対策)	【工夫・創造】	ノート・学習プリント
第4時 (本時)	安全な住まい(災害への備え)	【工夫・創造】	ノート・学習プリント
第5時	快適な住まい(室内の空気調節)	【工夫・創造】	ノート・学習プリント
第6時	快適な住まい(住まいと音)	【工夫・創造】	ノート・学習プリント

7 本時の構想

(1) 本時の目標

- ・安全な住まい方や自然災害に備えた住まい方について理解し、自分の家の課題を見つけその解決を目指して工夫する。

(2) 研究に関わって

視点1「題材及び1時間単位の指導目標（到達目標）を明確にした指導の工夫」について

- ・「わが家の災害への備えを考えよう」を学習課題として設定する。災害の備えとして避難経路の確保などを視点とした室内の整え方、非常持ち出し品について考えさせる。また、学習のふり返りの場を設ける。

視点2「学ぶ意欲を喚起する学習課題の工夫」について

- ・自分の家の災害への備えを考えることで、生徒の学ぶ意欲を喚起する。

視点3「学習課題に即した言語活動の工夫」について

- ・課題について考えたことを記入し、説明させる場を設定する。

視点4「次時へ意欲をつなぐ、ふり返りの場の設定」について

- ・授業の終わりに「学習チェックシート」で自己評価し、自分の言葉でまとめさせる。

(3) 本時の評価

具体的評価規準 評価の観点	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒への手立て
生活を 工夫し創造する能力	安全な住まい方(自然災害への備え)について課題を見つけ、体験や既習事項から自分の考えをもち、工夫することができる。	安全対策のための工夫点を確認させる指導を行う。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	形態	指導上の留意点（・） 評価（○）
導入 5分	震災のときの想起	東日本大震災のときを想起し、どのように行動したのか、また、家ではどんな被害があったかを想起し、学習の見通しをもつ。	一斉	視点1 「わが家の災害への備えを考えよう」を学習課題として設定する。
学習課題：わが家の災害への備えを考えよう				
展開 35分	課題の追求①	地震災害に備えた住まい方 <ul style="list-style-type: none"> 調べてきた場所（リビング・寝室）について、グループごとに危険箇所と理由、その対策を出し合う。 いくつかのグループが発表する。 発表をもとに全体で確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 安全な寝床、家具の固定、出入り口の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドを窓から離す ・ベッド付近に倒れてきそうなものを置かない ・高いところには重いものを置かない ・家具を固定する ・避難経路を確保する ・ドアの近くに家具を置かない など </div>	グループ ↓ 一斉	視点2 自分の家の災害への備えを考えることで、学ぶ意欲を喚起する。 視点3 課題について考えたことを記入し、説明する場を設定する。 ・机間指導をし、グループごとに助言する。
	課題の追求②	「非常持ち出し品」 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が必要とする「非常持ち出し品」を、理由をつけて発表する。 ・発表をもとに全体で確認する。 ・個人の「非常持ち出し品」に更に必要な物を書き加える ・新たに書き加えたものとその理由を発表する。 	個 ↓ 一斉	○課題に沿って対策を記入しているか（観察） ・机間指導をし、個別に助言する。
	課題の追求③	「災害用伝言ダイヤル」 <ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤル「171」とその使い方を確認する。 	一斉	資料：教科書 ノート 「非常持ち出し品」 ・机間指導をし、個別に助言する。 ○課題に沿って対策を記入しているか（観察）
	課題の追求④	「避難所」 <ul style="list-style-type: none"> ・自宅付近の「避難所」を確認し、学習プリントに記入する。 	一斉 個	資料：「災害用伝言ダイヤル」 資料：行政区ごとの避難場所一覧（一関地域：萩荘地区）
終末 10分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習チェックシート」に記入する。 ・本時の活動について評価し、次時の予告をする。 	個 一斉	視点4 「学習チェックシート」で自己評価し、自分の言葉でまとめさせる。